

<http://www.shika-implant.org/>

インプラント
ニュース



since 1972
Japanese Society
of Oral Implantology

第21号

平成27年2月10日発行

Implant News No.21

公益社団法人 日本口腔インプラント学会会報

発行人 渡邊 文彦 編集 公益社団法人 日本口腔インプラント学会広報委員会

事務局 〒105-0014 東京都港区芝2-30-11 芝コトブキビル301

TEL. 03-5765-5510 FAX. 03-5765-5516

HP : <http://www.shika-implant.org/> Eメールアドレス : jsoi@peace.ocn.ne.jp

【本号のトピックス】

新年の挨拶, 第44回 学術大会報告, 各表彰者紹介など

新年のご挨拶

公益社団法人日本口腔インプラント学会 理事長
渡邊文彦

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様には日頃より学会活動、一般の皆様への医療提供にご理解とご尽力をいただき厚く御礼申し上げます。ここ数年口腔インプラント治療に関するトラブルが報道され、口腔インプラント治療に対するネガティブキャンペーンともいえるべきマスコミ報道がなされました。しかし会員一人一人の口腔インプラント治療に対する熱い思い、日常臨床における努力により患者や一般の方からの信頼も少しずつですが回復されてきました。質の高い機能、審美回復はもとより、健康維持にも貢献できることが患者にも、またマスコミの方々にも浸透し、批判的な記事も少しずつですが少なくなってきました。しかしまだ広告のなかには患者獲得からか、誇大広告が目に入ります。口腔インプラント治療を行う医療従事者の知識技術が大切であることも一般の国民の方が理解してきました。

このような時期、一般の方、社会に口腔インプラント治療が素晴らしい治療であることを認識していただ

くため、学会として推進しなければならない種々な学術的活動、卒前卒後のインプラント教育の整備、相談窓口の開設、治療指針の作成、用語集の編集、市民フォーラムの開催など20名の理事の先生方および22の各委員会が一丸となって遂行してまいりました。また、あわせて学会の使命である国民の皆様へ口腔インプラント治療を通じての適切な医療の提供、国民の健康維持を目標に臨床に直結した医療を行うべく活動を行ってまいりました。口腔インプラント治療は質の高い日常生活を可能にする医療ですが、未だ残念ながら一部では不適切な広告、インプラント治療が行われております。本学会としては適切な口腔インプラント治療をめざし、専門医制度を立ち上げており、現在広告可能な口腔インプラント専門医の承認を目標としております。これはもちろん国民の皆様への適切な口腔インプラント治療を提供するためです。口腔インプラント治療に関するトラブルは現在も頻繁に耳にします。だれがトラブルを起こすのか、どの時点で起こるのか、

いずれにしてもこれらは患者が口腔インプラント治療に対する疑念を抱くことであり、これを払拭、改善することが公益社団法人日本口腔インプラント学会の使命です。

今期もこのようなことから5本の柱を中心に活動を進めていきたいと思えます。①医療安全の推進、②学術活動の推進と歯科医師への還元、③地域での口腔インプラントの啓蒙活動、④口腔インプラント治療知識技術の向上を目指す教育活動、⑤学会活動の整備です。現在、公益社団法人日本口腔インプラント学会は14,000余名の会員(平成27年1月現在)を擁する

我が国の歯科医学関連のうち最大規模の学術団体です。口腔インプラント学の学術研究の推進とこれをもととした口腔インプラント医療を国民へ提供する大きな義務があります。会員一人一人が本学会の会員であることの高い自覚と意識、プライドをもって治療にあたり、患者の健康増進に努めていただきたいと思います。学会会員は日々これら知識、技術の向上に努めていただき、国民に安全な口腔インプラント治療を含めた医療を提供することにより、健康維持につながるものと考えます。

第44回 公益社団法人日本口腔インプラント学会 学術大会開催報告

平成26年9月12日(金)～14日(日)の3日間、東京国際フォーラムに於いて、第44回公益社団法人日本口腔インプラント学会学術大会が開催されました。

今回の学術大会では、「口腔インプラント治療の“めざすもの—より信頼されるインプラント治療へ—」を

メインテーマに掲げ、本部学術委員会と大会準備委員会とが一体となってプログラム構成をさせていただきました。下村博文(文部科学省)大臣からは「2020 夢ビジョン日本」を、樋渡啓祐(佐賀県武雄市)市長からは「完成力より修正力～常識を覆す～」を、さらに宗



開会式・築瀬大会長の挨拶



理事長講演



下村文部大臣の特別講演



第1会場



DGI セッション



懇親会



デンツプライ賞受賞者とともに

田 大 (東京医科歯科大学医学部) 教授からは「人工関節・人工股関節のリビジョンの原因とその対応～自験例から～」と題した特別講演を頂戴しました。メインテーマにそったシンポジウムは「インプラント治療の確実性と不確実性」「インプラント治療の社会的評価を問う」「経過観察からインプラント治療を考察するー補綴学的視点から将来のインプラント治療について考えるー」「Peri-implant diseases の予防と対応」の4題を企画いたしました。他学会との共催企画として、日本歯科放射線学会との教育講演、日本顎顔面インプラント学会ならびに日本口腔検査学会との教育講演、さらには日本デジタル歯科学会との専門歯科技工士セミナーを準備させていただきました。海外からの演者として、DGI から Iglhaut 先生と Ackermann 先生、Eastman Dental Institute から Donos 先生をお迎えいたしました。市民フォーラムでは、「物忘れと噛むチカラー認知症と健康長寿を考えるー」と題し、日本歯科医師会大久保満男会長と医師である本間 昭

先生、築瀬大会長に登壇いただきました。

その他、臨床の疑問に答える、若手インプラントロジストのためのワークショップ、研究シンポジウム、各種委員会セミナー、専門医教育講座、専門歯科衛生士教育講座、専門歯科技工士教育講座、企業セミナー、ブラックファストセミナー、ランチョンセミナー、イブニングセミナー等を開催しました。会員発表については、ケースプレゼンテーション204題、口演発表・ポスター発表298題と多数の演題発表をいただきました。

展示ホールでは、5,000m²の会場に136社、計368小間の展示をいただき、沢山の参加者がブースに立ち寄って下さいました。今回、会員家族の同伴を認めていただきましたので、シムロイドを用いた歯科医師体験やフラワーアレンジメント教室といった新たな試みも用意させていただき、参加家族にも好評を得ることができました。

お陰をもちまして、参加者は4,500名を超え、有意義な学術大会を開催することができました。これもひとえに学術大会をサポートくださった皆様方のご支援の賜物と、ここに深く感謝し、ご参会いただきました関係各位に心よりお礼申し上げます。大会運営にあたり、何かと行き届かないことも多くあったかと存じますが、何卒ご寛容のほどお願い申し上げます。今後とも宜しく願いいたします。

大会長 築瀬武史
副大会長 矢島安朝
副大会長 井汲憲治
実行委員長 塩田 真
準備委員長 江黒 徹

第45回 公益社団法人日本口腔インプラント学会 学術大会のご案内

—美しい学都・岡山にぜひお越し下さい—

大会長 窪木拓男

第45回大会は、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科インプラント再生補綴学分野の窪木が、担当させていただきましたことになりました。岡山での開催にあたり、多数の関係者にご尽力を賜りましたこと厚く御礼申し上げます。9月21日(月)は、岡山シンフォニーホールを中心に倫理委員会セミナー、専門医教育講座を開催致します。9月22日(火)、23日(水)は、駅周辺のホテルやコンベンションセンターをコンプレックスとして、特別講演、シンポジウム、一般口演、ポスター発表、企業展示等を開催致します。準備委員会を中心に、ご不便をお掛けしないよう細心の注意を払い、準備を進めております。

さて、本邦は超高齢社会を迎え、口腔機能の向上は国民の生活の質に直結する大きな目標と考えられています。このような中で高齢者の「食」を基盤とした健康増進、介護予防、虚弱予防は、目下の大きな課題となっています。口腔インプラントは、このような超高齢社会において、適切かつ効果的に利用されれば、大きな武器たり得ると考えられますが、一方で、不適切な使用や無責任な対応は患者に害を与える可能性も指摘されております。

本大会を通じて、口腔インプラントの最新のインノベーションを共有するとともに、超高齢社会における問題点や対応策も議論したいと考えております。ぜひ、



窪木大会長



ホテルグランヴィア岡山



岡山コンベンションセンター

多数の方にご参集いただき、原点に立ち返って口腔インプラントのあり方を考えてみたいと思います。

岡山は、中国四国地区の交通の要所に位置し、山の幸、海の幸に恵まれております。また、三大名園の一つである後楽園を擁しており、竹久夢二の生家等、多くの観光地に恵まれております。近隣には倉敷という大変人気のある国際観光都市も控えており、会員各位のご要望に存分にお応えできるものと考えております。

最後になりましたが、大型連休となりますので大変な混雑が見込まれております。岡山県、岡山市、倉敷市を挙げて準備しておりますが、観光が目的のお客様によって宿泊施設が一杯になる可能性があります。会員の皆様におかれましては、宿泊施設はなるべくお早めにおさえていただくようお願い致します。

美しい学都・岡山で、学術活動はもとより、素晴らしい秋の季節を満喫していただきますようお願いし、ご挨拶に代えさせていただきます。

第44回 公益社団法人日本口腔インプラント学会学術大会 受賞者紹介

優秀研究発表賞

大城和可奈(九州大学インプラント・義歯補綴学分野)
「チタンに対する上皮封鎖性向上法の探求—塩化カルシウム水熱処理の効果—」

小山田勇太郎(岩手医科大学歯学部補綴・インプラン

ト学講座)

「携帯型筋電計によるインプラント上部構造破損原因とブラキシズムの分析」

郡 英寛(九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座)

「インプラント補綴装置装着後の隣接面コンタクトの

離開の原因についての検討」

関 啓介 (日本大学歯学部附属病院歯科インプラント科)

「歯周病既往患者に対するインプラント治療の10年間後向き臨床的検討」

松崎達哉 (九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座)

「インプラント周囲骨のダイナミクスに影響する応用閾値の解析」

守 源太郎 (東京歯科大学口腔インプラント学講座)

「付着上皮とインプラント周囲上皮における遺伝子発現の網羅的解析」

デンツプライ賞

小柳達郎 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科歯周病学分野)

「コーンビームCTを用いたインプラント周囲炎欠損の形態解析」

坂井裕大 (関東・甲信越支部)

「骨髄間葉系幹細胞 (MSC) を用いた骨増生治療法の

検討～臨床サイズの骨増生とインプラント適応の可能性評価～」

辻村麻衣子 (日本歯科大学新潟生命歯学部解剖学第二講座)

「骨改造を制御するインプラント周囲細胞の免疫組織化学的検討」

望月久子 (朝日大学口腔機能修復学講座歯科保存学分野歯冠修復学)

「破骨細胞直下の酸環境モデルにおける各種人工骨補填材料の溶解挙動」

ヒューフレディ賞

畑岡いづみ (関東・甲信越支部)

「上顎多数歯欠損症例患者のインプラント治療時における上唇挙上の衰えをスマイルトレーニングにて回復させた4症例に対する報告」

横谷亜希子 (近畿・北陸支部)

「大白歯部を小白歯化したインプラント上部講座のメインテナビリーティー」

(以上 50 音順)

学会特別論文賞受賞者紹介 (50 音順)



市川哲雄先生

1958年9月28日生まれ

学歴

1983年 徳島大学歯学部卒業

1987年 徳島大学大学院歯学研究科博士課程修了

職歴

1987年 徳島大学助手 (歯学部歯科補綴学第一講座)

1990年 徳島大学講師 (歯学部附属病院第一補綴科)

1990年 Massachusetts Institute of Technology, Visiting scientist

1997年 徳島大学教授 (歯学部歯科補綴学第一講座)

2003年 徳島大学学長補佐兼任

2003年 徳島大学留学生センター長兼任

2004年 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部教授 (現在に至る)

2010年 徳島大学評議員

2011年 徳島大学歯学部長, 大学院口腔科学教育

部長（現在に至る）

学会活動

日本口腔インプラント学会（代議員，中国四国副支部長，広報委員会副委員長）
第39回日本口腔インプラント学会学術大会大会長
日本口腔インプラント学会専門医・指導医
日本補綴歯科学会理事
日本老年歯科医学会理事
日本学術会議連携会員
医道審議会委員
日本学術振興会科学研究費専門委員会委員
医薬品医療機器総合機構専門委員ほか

表彰

1992年 Annual Meeting of Academy of Osseointegration 学会賞
1996年 日本口腔インプラント学会優秀論文賞



川添堯彬先生

1942年1月5日生まれ

学歴

1966年 大阪歯科大学卒業
1970年 大阪歯科大学大学院歯科補綴学専攻修了
1970年 歯学博士取得

職歴

1970年 大阪歯科大学歯科補綴学第三講座 助手
1974年 大阪歯科大学歯科補綴学第三講座 講師
1974年 岐阜歯科大学（現朝日大学歯学部）助教授
1982年 大阪歯科大学歯科補綴学二講座 教授
1982年 大阪歯科大学大学院 教授
1994年 中国西安第四軍医大学口腔医学院 客座教授
1997年 大阪歯科大学附属病院 副病院長
2000年 大阪歯科大学有歯補綴咬合学講座（講座

名変更）教授

2004年 大阪歯科大学 副学長
2007年 大阪歯科大学 学長
2007年 大阪歯科大学 理事長
2008年 中国南方医科大学 名誉教授
2008年 中国西安第四軍医大学口腔医学院 名誉教授
2008年 中国四川大学華西口腔医学院 名誉教授
2008年 中国上海交通大学口腔医学院 名誉教授
2008年 中国北京大学口腔医学院 客座教授
2009年 大阪歯科大学 名誉教授
2012年 米国コロンビア大学 名誉客員教授
2012年 英国キングスカレッジロンドン歯学部 名誉教授

学会活動

大学系指定研修施設長（大阪歯科大学）～現在に至る
1995年 日本口腔インプラント学会専門医・指導医
1997年 日本口腔インプラント学会副会長（2期）
2003年 日本口腔インプラント学会会長（1期）
2005年 （社）日本口腔インプラント学会理事長（3期）
2010年 （公社）日本口腔インプラント学会理事長（2期）

（委員会等）

1997年 渉外委員会委員長
1997年 用語委員会担当副会長
1997年 医療委員会担当副会長
2000年 認定委員会担当会長
2011年 表彰委員会委員長
2011年 認定制度検討委員会委員長
（他学会関連）
1995年 国際歯科研究学会日本部会 理事
1999年 日本顎頭蓋機能学会 会長
1999年 国際歯科研究学会日本部会 監事
2000年 日本歯科医学会顕彰審議会 委員
2001年 厚生労働省医道審議会 専門委員
2001年 日本歯科医学会 常任理事
2001年 日本補綴歯科学会 会長
2003年 日本歯学系学会協議会 理事
2006年 日本歯科医学会 常任理事

2010年 日本歯学系学会協議会 常任理事
 2011年 医療系大学間共用試験実施評価機構 理事
 2012年 第22回日本歯科医学会 会頭
 2013年 一般社団法人 日本私立歯科大学協会 会長
 2013年 日本歯科審美学会 名誉会員
 2013年 大学基準協会「大学評価委員会大学評価分科会第31群主査」
 2014年 公益財団法人 ライオン歯科衛生研究所 理事
 2014年 一般財団法人 歯科医療振興財団法人 理事長

2014年 文科省「歯科医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」委員
 2014年 厚生省「歯科医師の資質向上に関する検討会」委員
 表彰
 2010年 日本歯科医学会 会長賞受賞
 2012年 公益社団法人 日本口腔インプラント学会 近畿・北陸支部学会特別功労賞
 2013年 日本歯科審美学会 名誉会員
 2013年 公益社団法人 日本口腔インプラント学会 特別功労賞
 2014年 一般社団法人 日本老年歯科医学会 第24回学術大会名誉大会長感謝状

各表彰者紹介 (50音順)

学会優秀論文賞



北所弘行先生

北海道医療大学顎顔面口腔外科学分野
 論文名「部分溶解析出処理により作製したリン酸カルシウムセラミックスのBMP-2徐放特性と骨誘導特性」

このたびは第44回日本口腔インプラント学会学術大会にて、平成26年度学会優秀論文賞を賜り大変光栄に感じ、感謝しております。選考いただきました先生方に深く心より感謝申し上げます。

近年、歯科の再生医療への期待の背景には、インプラント治療の適応拡大や審美的、機能的な補綴治療への期待が高まっています。特に、骨造成はインプラント治療の適応症の拡大に重要な要素となっています。そして、骨造成には、ゴールデンスタンダードとして自家骨が使用され、採骨による患者の負担も多く、侵襲度の高い治療と考えられます。患者の負担軽減のためには、また快適なインプラント治療を受けるためには、効率の良い骨再生を促す骨補填材料が必要となり

ます。そこで、私たちは、人工骨補填材の代表でもあり、 β -リン酸三カルシウム(β -TCP)に部分溶解析出処理(PDP処理)を行うことにより新規表面性状を獲得したマテリアルを使用し、さらにそのマテリアルに少量のBMP-2を保持させることによる効率的な骨再生の可能性について検討しました。PDP処理は、私たちの教室で確立されたアパタイト顆粒を硝酸エッチングによる部分溶解処理を加えることで形成される人工気孔にナノオーダーの針状結晶と、マイクロオーダーの球状結晶を有するアパタイトを析出する方法であり、細胞の侵入や体液吸収を促進し、その後の析出処理により表面積を増大させ、表面に析出したナノマイクロクリスタルは細胞の足場となり細胞増殖因子を三次元的に保持できると考えています。この手法を β -TCP顆粒に処理したところ(PDP- β -TCP)、表面に微細な結晶構造を有して表面積は5倍に増大し、組成はハイドロキシアパタイト、モネタイト、 β -TCPの3層構造に組成変化しました。さらに、PDP- β -TCPは β -TCPよりもBMP-2徐放実験、BMP-2用量依存性骨誘導実験および体液の浸透性を向上しました。これらの結果より、市販されている β -TCPをPDP処理することにより、骨形成の促進に適したマテリアルへ改善すると考えられ、本研究が今後の骨再生研究に貢献できれば幸いです。

最後に本研究に際し、京都大学再生医科学研究 田畑泰彦教授、山本雅哉准教授および共同執筆者の諸先生方にこの場をお借りし謹んで深く感謝いたします。



西村正宏先生

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科

口腔顎顔面補綴学分野

論文名「骨増生に向けた顎骨骨髓液採取と間質細胞培養法」

この度は、平成26年度日本口腔インプラント学会優秀論文賞を受賞させていただき誠にありがとうございます。また、ご選考いただきました先生方に心より感謝申し上げます。

私は広島大学在任中の2000年頃から、顎骨骨髓由来の間質細胞を用いた顎骨再生医療の開発研究を進めてきました。インプラント埋入計画時に、骨欠損が著しい場合、多くのケースで骨造成が必要になる症例に遭遇し、何とか採骨を回避し、低侵襲で確実な骨増生法を確立できないか感じていたからです。長崎大学に移ってからも、朝比奈 泉教授のご協力のお蔭でヒトの顎骨から細胞を採取する機会をいただき、本論文の結果を得ることができました。腸骨骨髓間葉系幹細胞は近年様々な組織再生医療に用いられていますが、顎骨骨髓から採取・培養される間質細胞のほうが、歯科医師が口腔内から細胞を採取できることから、顎骨を再生するためには有利な細胞ソースではないかと私は考えてきました。しかし顎骨内の骨髄量は極めて少なく、その採取法と培養法については不確実な点が未だに多い状況です。個人差や採取する部位によって培養される細胞の質も様々です。そこで我々は、多くの患者さんのインプラント埋入時に新たな侵襲なしに、ごく少量の顎骨骨髓液を採取する方法を考案し、骨髓液から顎骨骨髓間質細胞を増殖させ、増殖した細胞の表面抗原発現や石灰化能を調べました。本論文はそのうち、in vivoでの骨形成能も調べた2例の細胞についての報告です。これまでは、in vitroでの骨分化能と移植後の細胞の骨形成能とは比例するという報告が一般的でしたが、意外なことに今回解析した2例の骨髓間質細胞はin vitroでの石灰化が遅く細胞表面抗原のHLA-DR発現率の低い細胞のほうが、マウスの頭頂骨上に旺盛な骨増生を認めました。少なくともヒ

ト顎骨骨髓間質細胞については、in vitroでの石灰化能が必ずしも移植後の骨形成能の指標にはならないということが示唆されたことから、今後は何が移植後の骨形成能のキーファクターなのかを解明していくつもりです。

最後に、自由に研究をさせていただいた長崎大学の村田比呂司教授、口腔・顎・顔面インプラントセンターで様々な助言をくださった澤瀬 隆教授、そして本研究を手伝ってくれた黒木唯文助教、(株)ジーシー研究所の坂井裕大研究員、そして現在の私の分野の末廣史雄助教にも深く感謝申し上げます。

学会奨励論文賞



藤田日登美先生

昭和大学歯学部顎口腔疾患制御外科学講座

論文名「インプラント体周囲に発症したビスフォスフォネート製剤関連顎骨壊死の1例」

この度は平成26年度学会奨励論文賞を受賞させていただき、誠にありがとうございます。ご選考いただきました諸先生方には心より感謝申し上げます。

本症例は、乳癌の骨転移に対するビスフォスフォネート製剤(BPs)静注投与による治療期間中にインプラント埋入術が施行され、その数年後にBPs関連顎骨壊死(BRONJ)を発症したというものです。

そもそも窒素を含有する注射用BPs投与患者に対してのインプラント治療は、骨への侵襲が加わるため抜歯術等と並びBRONJの局所的リスクファクターとされています。しかしインプラント埋入術からBRONJが発症するまでに約4年という期間があり、摘出したインプラント体表面が顕微鏡下で骨と直接接触していたことから、本症例では手術侵襲が直接の引き金となったのではなく、機能していたインプラント体の周囲にBRONJが発症したのではないかと考察しました。つまり、現在なんの問題もなく機能しているインプラント体であっても、患者がBPsの投与を受けている場合には将来的にその周囲にBRONJが発症する可能性があ

るといふことで、インプラント治療を受けた患者に対しては継続した長期間の経過観察が必要となることを示唆しています。また本症例に対しては、外科療法によるインプラント体を含めた周囲の骨切除を行いました。BRONJの発症機序が明らかでないため、その治療法についても保存的治療を主とする病期ごとの対応となっていますが、患者の全身状態によっては長期のBPs投与の中止が困難な場合もあり、速やかに原因を除去して遅滞なく基礎疾患の治療を行えるように、外科療法を選択する必要もあると考えます。今回は文献的考察が主となりましたが、BRONJの発症機序やその治療法が今後明確にされていけばと考えています。

最後になりましたが、本論文の作成にあたりご指導いただいた昭和大学歯学部口腔外科学講座顎顔面口腔外科学部門教授の代田達夫先生、並びに昭和大学歯学部口腔解剖学講座教授の中村雅典先生にはこの場をお借りしまして深く御礼申し上げます。



山本 愛 先生

東京医科歯科大学歯学部附属病院
回復系診療科インプラント外来

論文名「上顎洞底挙上術を併用したインプラント治療のリスク因子に関する臨床的検討」

この度は、名誉ある学会奨励論文賞を賜り、大変光栄に存じ、心より感謝申し上げます。また、ご選考下さいました先生方、学会の皆様方には心より御礼申し上げます。

インプラント治療の普及に伴い、上顎洞底挙上術もまた広く行われるようになってきており、予知性の高い治療法となっております。しかしながら、予知性に影響を与えると考えられる全身的要因、局所要因、術中・術後経過などとの関連性について分析した研究は少なく、明確な基準が定まっておられません。そこで、本研究ではラテラルウィンドウテクニックによる上顎洞底挙上術を併用したインプラント治療に影響を及ぼす因子に関して検討し、プロトコールを作成致しました。

研究の概要ですが、2000年から2011年の間に東京医科歯科大学歯学部附属病院インプラント外来にて上顎洞底挙上術を行った234症例490本を対象とし、観察期間1～12年のうち、インプラント体の残存率、喪失時期、喪失原因、喪失に関わる全身的・局所要因である、①既存骨高径量、②洞粘膜肥厚量、③全身疾患、④喫煙、⑤術中の洞粘膜穿孔、⑥初期固定、⑦術後経過時のカバースクリューの露出、⑧移植材料について検討を行いました。

本研究において、インプラント体の累積残存率は十分な骨量の上顎臼歯部の報告と同等の結果でした。また、インプラント体喪失の約7割が埋入後1年未満に生じていることから、二次感染の予防や、免荷期間について十分考慮する必要があります。上顎洞底挙上術のリスク因子として、呼吸器疾患または鼻疾患の有無と術後のカバースクリューの露出が挙げられ、十分に留意する必要性が示唆されました。現在、当外来では本研究結果をふまえて作成したプロトコールに則り上顎洞底挙上術を行っております。今後はさらなる長期的予後に関する研究に邁進していく所存でございます。

最後に、本研究の機会を与えて下さり、ご指導いただきました春日井昇平教授をはじめ、東京医科歯科大学インプラント・口腔再生医学分野の諸先生方にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

優秀研究発表賞



有岡将基先生

九州大学大学院歯学研究院

口腔顎顔面病態学講座口腔顎顔面外科学分野
演題名「Glycogen synthase kinase-3 β 阻害薬の骨形成促進薬としての可能性」

この度は、第43回日本口腔インプラント学会学術大会におきまして、優秀研究発表賞を受賞させていただき、大変光栄に存じますとともに、心より感謝申し上げます。また、ご選考いただきました先生方に改めて

深謝いたします。

今回受賞いたしました研究内容は、骨代謝に関与している Wnt/ β -catenin シグナル伝達経路を活性化する Glycogen synthase kinase-3 β (GSK-3 β) 阻害薬が骨芽細胞・破骨細胞および生体の骨形成に与える影響について研究、報告させていただきました。前骨芽細胞であるマウス未分化間葉系幹細胞株 C3H10T1/2 において、GSK-3 β 阻害薬は分化・石灰化を促進しました。また、前破骨細胞であるマウス破骨前駆細胞株 RAW-D においては、GSK-3 β 阻害薬は分化を抑制することが示されました。生体内のラット骨欠損モデルにおいては、GSK-3 β 阻害薬含有マトリゲルの局所投与が新生骨形成を促進させました。

骨形成促進の手段として BMP-2 等の成長因子の歯科臨床応用が今後期待されますが、新薬の認可に長時間を要することや高価であることから、広い普及に未だ至っていない現状があります。GSK-3 β 阻害薬の一つにリチウムがありますが、これはすでに双極性障害の治療に長年医薬品として使用されており安価であるため、もしヒトでも効果を認められるならば、比較的早期に臨床応用できる可能性があることも利点の一つと考えています。更なる研究と検討が必要と思いますが、本研究が社会貢献の一助となれば幸いです。

最後に、本研究をご指導いただきました九州大学大学院医学研究院臨床薬理学分野の笹栗俊之教授、高橋富美先生ならびに九州大学大学院歯学研究院口腔顎顔面病態学講座口腔顎顔面外科学分野の森悦秀教授、佐々木匡理先生にこの場をお借りして御礼申し上げます。



大野充昭先生

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
インプラント再生補綴学分野

演題名「WISP-1/CCN4 遺伝子は BMP-2 の機能を制御することで骨芽細胞分化を正に制御する」

骨形成タンパク質 BMP-2 を応用した骨再生療法は、現在、次世代の骨再生療法として期待されています。

我々の研究室では、これまでに大腸菌由来 rhBMP-2 の世界初の臨床応用に向けて、大型動物を用いた口腔インプラント体周囲骨欠損モデルにおける大腸菌由来 rhBMP-2 の有用性を明らかにすると共に、BMP-2 の作用機序やネガティブ・フィードバック機構の一部を明らかにしてきました。実際、BMP-2 には TGF- β 1 に代表される enhancer や Noggin に代表される inhibitor が数多く報告され、その作用は複雑に制御されています。私は今回 BMP-2 の enhancer として WISP1/CCN4 タンパク質を同定しました。そして、その作用メカニズムを明らかにするため、WISP1/CCN4 遺伝子欠損マウスおよび過剰発現マウスを作製し、in vitro, in vivo の両面から解析を行いました。その結果、WISP1/CCN4 は細胞接着因子の一つである Integrin を介して BMP-2 の作用を増強していることを明らかにしました。今後は、WISP1/CCN4 遺伝子の BMP-2 に対する機能ドメインを探索し、ペプチドレベルで臨床応用の可能性を模索したいと考えております。

また、これまで、大腸菌由来 rhBMP-2 の臨床応用に向け、様々な動物モデルを構築し、大腸菌由来 rhBMP-2 の骨形成能を検討してきました。その結果、現在、BMP-2 には適応症があることが分かりつつあります。今後、その適応症を明確にするとともに、BMP-2 の作用機序をより詳細に検討していきたいと考えております。

最後になりましたが、この度は、第 43 回日本口腔インプラント学会学術大会にて優秀研究発表賞を賜り、心より感謝申し上げます。また、本研究を行うにあたりご指導いただきました岡山大学大学院医歯薬学総合研究科インプラント再生補綴学分野、窪木拓男教授、米国 NIDCR/NIH, Marian F. Young 先生、ならびに本研究にご協力いただいた先生方に、この場をお借りして御礼申し上げます。



片桐 渉先生

名古屋大学大学院医学系研究科顎顔面外科学
演題名「幹細胞培養上清由来液性因子による内在性幹

細胞の遊走および血管新生を先行させる新たな骨再生法」

この度は第43回日本口腔インプラント学会学術大会優秀研究発表賞を受賞させていただき大変光栄に存じます。ご選考いただきました先生方並びに学会員の皆様に深謝いたします。

これまでわれわれは骨髄由来間葉系幹細胞を用いた骨再生医療について、トランスレーショナル・リサーチの概念のもと基礎研究から臨床研究を行い内外にその有用性を報告してきました。しかしながら幹細胞を取り扱うため、様々な規制や細胞培養施設の運営管理、安全性担保や費用の面から普及には至っておりません。一方で移植した細胞の生存率の問題や、組織再生は移植細胞が分化してなされるだけでなく細胞が分泌する様々な液性因子等によって起こることが明らかになってきました。われわれはこれら液性因子が骨髄由来間葉系幹細胞の培養液に含まれることに着目し、幹細胞培養上清由来液性因子(以下、MSC-CM)による骨再生について検討を行いました。

本発表においてはMSC-CMには非常に低い濃度で様々なサイトカインが含まれており、これらのサイトカインが単独あるいは連携して骨再生における様々な働きを行うことを報告しました。MSC-CMは移植部周囲に内在する幹細胞を遊走させ、骨芽細胞への分化を促進します。また血管新生を促進する作用も有し、早期に移植部周囲に血管網を構築することにより、先述した幹細胞の遊走や血液供給が十分に行われ、結果として早期に骨再生が起こることを明らかにしました。

また、MSC-CMには炎症や免疫系を調整する液性因子も含まれることや前述したように非常に低濃度のサイトカインのカクテルであることより、本報告でも示したように組織学的にも炎症細胞浸潤は非常に少なく、骨形成性タンパク質(BMP)-2等の臨床使用にて見られる炎症反応も軽微となっています。

MSC-CMによる骨再生は幹細胞移植と同等であることをわれわれはすでに報告しており、本報告の結果とともに幹細胞移植に代わる方法として有用であることが示唆されます。また細胞移植にまつわる様々なハードルも回避でき、製剤化することにより広く普及できる可能性を有し、MADE IN JAPANの骨再生薬を目指した創薬の可能性も秘めています。

今後、このような出口を見据えた研究、開発を継続していきたいと考えております。

最後に本研究に際し様々なご指導、ご支援をいただきました名古屋大学大学院医学系研究科顎顔面外科学の教室員諸氏に深く御礼申し上げます。



かみなか
上中彰浩先生

大阪大学大学院歯学研究科
クラウンブリッジ補綴学分野

演題名「CBCTを用いたインプラント体頬側の軟組織および歯槽骨の経時的变化の検討」

この度は、第43回日本口腔インプラント学会学術大会におきまして、名誉ある優秀研究発表賞を受賞させていただき、大変光栄に存じます。

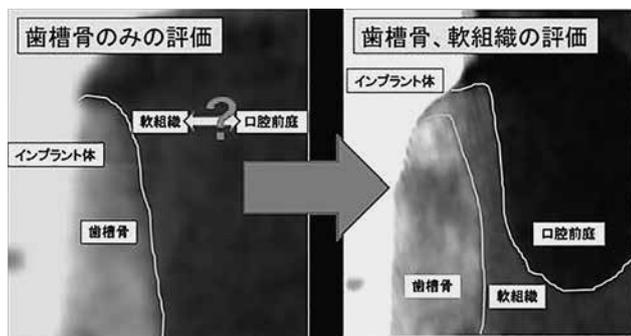
インプラント治療において埋入したインプラント体にアバットメントを連結し、上部構造を装着すると、経時的にインプラント周囲の骨吸収が生じ、続いてインプラント周囲軟組織のレベルも低下する可能性がありますと考えられています。これまでのインプラント体周囲組織の評価はデンタル、パノラマX線画像を用いた近遠心方向の歯槽骨を対象にしたものが多く、インプラント体の頬舌側方向の歯槽骨さらには軟組織について詳細に評価した報告はありませんでした。そこで、本研究ではインプラント体頬側の歯槽骨および軟組織をCone Beam CT (CBCT)を用いて定量的に評価し、インプラント体周囲組織の経時的变化について検討することを目的とし、前向き臨床研究を行いました。

方法はかなり試行錯誤しましたが、口腔前庭にロールワッテを挿入し、口唇と歯槽粘膜を圧排してCBCT撮影を行うことで1枚のCBCT画像上でインプラント体頬側の歯槽骨および軟組織を同時に定量評価することが可能となりました(次頁図)。これは、これまでの組織切片でしか観察することができなかったことであり、さらにCBCTを用いているために被曝に対する考慮は必須ではあるが、経時的に評価が行えるというすばらしい利点があります。

この手法を用いて定量評価を行ったところ、異なるアバットメントデザインについてコニカルコネクション

が頬側周囲組織の保存に有利であるということが示唆され、また、インプラント体頬側においては経時的に歯槽骨吸収が生じた部分は一部が軟組織に置換していることが明らかになりました。

本研究は現在も継続中であり、今後も補綴歯科医の視点から臨床に生かせる報告をさせていただきたいと思っております。最後に、本研究をご指導いただきました、大阪大学大学院歯学研究科歯科補綴学第一教室の矢谷博文教授、中野 環助教、教室の先生方にこの場を借りて心より感謝申し上げます。



松尾 朗先生

東京医科大学口腔外科学講座

演題名「海綿骨骨髄 (PCBM) と多血小板血漿 (PRP) で再建された顎骨におけるインプラント治療の長期評価」

この度は、第43回日本口腔インプラント学会学術大会優秀研究発表賞を賜り、大変名誉ある賞をいただき光栄と存じますとともに、御選考いただきました先生方に、深く感謝申し上げます。

下顎骨の再建法には多くの方法が発表されておりますが、海綿骨骨髄 (PCBM) をチタン製などのトレーに充填し移植する方法は、良好な骨形態を得やすく、多血小板血漿 (PRP) の併用により骨形成と創部の治癒を促進させるため、インプラント治療に有利と考えられます。

われわれは、本法による顎骨再建を積極的に行ってお

り、再建の有効性については J Oral Maxillofac Surg 2011, 69; 1807-17にて、再建骨の臨床的な質的評価に関しては J Cranio-Maxillofac Surg 2011, 39; 628-32、さらに、ビーグルを用いた基礎研究を J Cranio-Maxillofac Surg 2012, 40; e453-60 に発表してきました。本講演は、それらの成果を紹介するとともに、同法を用いて再建した後のインプラント治療に対する長期臨床評価および CT を用いた骨質評価を行ったものであります。

その結果、腫瘍・外傷などによる大規模な欠損に PCBM と PRP による顎骨再建および骨移植を行った後、インプラントを埋入した 13 例、30 本 (PCBM 群) に対し、Albrektsson の基準を用いインプラントの成功率を評価し、既存骨 (43 例、127 本：既存骨群)、ならびに骨量不足部に骨造成や上顎顎洞挙上術などを併用した症例 (26 例、42 本：骨造成群) と Kaplan-meier 法を用いて比較検討したところ、統計学的な有意差は認められませんでした ($P=0.783$)。また、CT を用い、骨質に関して、CT 値および形態学的に骨質を評価したところ、PCBM 群の骨質は、インプラント埋入直前に比べ長期経過後では CT 値が上昇し、形態学的には皮質骨が肥厚し周囲の既存骨構造と近似する傾向がみられ、これは過去の動物実験およびマイクロ CT を用いた骨微細構造解析の結果と同一であることがわかりました。

現在、インプラントに関連した骨の「質」に関する研究は、一般の骨代謝研究に比べ科学的根拠に乏しいといわざるを得ません。しかし、本学会でもそれらを解明すべく様々な動きが広がりつつあり、昨年第 44 回日本口腔インプラント学会学術大会では研究シンポジウム「骨の『質』的評価が変えるインプラント臨床」が開催されました。私も本シンポジウムで講演する機会をいただき「インプラント手術に関連する移植骨の構造について」の演題で発表させて頂く機会をいただきました。今後も、医学部病院の口腔外科という特性を生かし、本分野における研究をさらに進め、本学会ならびにインプラント学の発展に多少なりとも貢献できればと考えております。



むなかたもとひろ
宗像源博先生

神奈川県歯科大学顎咬合機能回復補綴医学講座
演題名「ポリ乳酸デバイスをスペースメイキングに用いた上顎洞底挙上術の検討」

この度は第43回日本口腔インプラント学会学術大会において優秀研究発表賞を受賞させていただき、大変光栄に存じ、心より感謝申し上げます。また、ご選考いただきました先生方、学会の皆様方に深謝いたします。

本研究は、Lundgrenからはじまるいわゆるグラフトレスサイナスリフトの臨床研究であります。Lundgrenをはじめとするグラフトレスのサイナスリフトの研究は、骨補填材料を用いないことからスペースメイキングとしてのインプラント体の同時埋入が原則的になっており、

1. 初期固定を得るための骨量が不十分な場合には適応できないこと。
2. インプラント体の底部が洞粘膜と直接接触することから、術後の洞粘膜の炎症の惹起や粘膜穿孔の可能性があること
3. インプラントによるメタルアーチファクトの問題から新生骨の状態を放射線学的に評価できないこと

などの問題がありました。本研究は上記の問題を解決するべくインプラント体の同時埋入をしなくてもスペースメイキングができる手法として考案した術式であります。側壁から吸収性のスクリューにて挙上粘膜を固定することにより、簡便で既存骨量に関わらず施行できる方法として非常に有用な術式だと考えております。

昨年度より神奈川県歯科大学に大学所属が変わりましたが、今後も長期経過および挙上量の限界に関して検討していくとともに、グラフトレスサイナスのもう一つの課題である開洞部の処理方法の問題について、メンブレンも含めて研究していきたいと考えております。

最後になりますが、本研究に関わらず絶大なご指導をいただいている東京医科歯科大学附属病院インプラ

ント外来の立川敬子先生ならびに本研究にご協力いただきました全ての関係者各位にこの場を借りて心より感謝申し上げます。

デンツプライ賞



中田秀美先生

東京医科歯科大学歯学部
インプラント・口腔再生医学分野
演題名「脂肪由来スフェロイドの三次元的分化誘導による骨再生の試み」

この度は、第43回日本口腔インプラント学会学術大会におきまして、名誉あるデンツプライ賞を賜り、誠に光栄に存じますとともに、ご選考いただきました先生方、学会の皆様方に深謝いたします。

近年、骨や軟組織の欠損に対する再生療法として、自己の組織幹細胞を用いた移植材開発に期待が高まっています。なかでも脂肪組織は、アプローチしやすい皮下の浅層に豊富に存在するため、採取が非常に低侵襲である上に、その中に含まれる幹細胞の数が骨髓に比較しておよそ1000倍であることから、体性幹細胞のソースとして注目されています。

そこで本研究では、マウス皮下脂肪由来幹細胞からスフェロイド(細胞塊)を作製し、多分化能を検討する目的で、in situ hybridizationを行い、多分化能のマーカー遺伝子であるOct3/4、Nanog、Sox2 mRNAの発現を確認しました。さらに、BrdUによる免疫染色を行った結果、目視できるサイズに成長したスフェロイド内部にも活発な細胞分裂が確認されました。透過電子顕微鏡による観察では、組織学的にスフェロイド内部に壊死がないことや、大きく成長するために必要なコラーゲンなどの細胞外マトリックスの分泌を認めました。また、三次元的な分化誘導を検討するため、 β -TCPおよびHydroxyapatiteディスク上に置いたところ、スフェロイドは数日でディスク内部を満たすと同時に、骨芽細胞分化の指標であるALP陽性を示しました。こ

これらの結果より、脂肪由来幹細胞を立体化することで、豊富な細胞外基質の分泌と三次元的な細胞接着を持つことが明らかとなり、自己の組織を用いた、低侵襲な、生体の構造に近い立体的組織再生が実現する可能性が示唆されました。

現在わが国では、明確にインプラント治療のための骨移植への適応が許可されている人工骨がなく、侵襲の高い自家骨移植を余儀なくされるケースも散見されます。今後は生体内に移植後の脂肪由来スフェロイドの骨再生能とスキャフォールドフリーで用いる移植材としての素質を検討して、安全な自家組織由来幹細胞を用いた再生療法の開発に繋げていきたいと思えます。

最後に、本研究に際し、ご指導を賜りました、東京医科歯科大学インプラント・口腔再生医学分野 春日井昇平教授、塩田 真准教授、黒田真司先生、そして立川敬子先生をはじめ、インプラント外来の諸先生方に深く感謝申し上げます。また、本研究を継続するにあたり、ご厚意を賜りました岩手医科大学補綴・インプラント学講座 近藤尚知教授に、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。



木下英明先生
東京歯科大学歯科理工学講座
演題名「教育用ツールとしてのインプラント手術シミュレーターの開発」

この度は第 43 回日本口腔インプラント学会学術大会にてデンツプライ賞を賜り、大変光栄に存じますとともに、心より感謝申し上げます。また、ご選考いただきました諸先生方に改めて深謝いたします。

インプラント治療の普及に伴いインプラント手術における偶発症も多数報告されています。インプラントの偶発症の一つとして、ドリリング時の骨外穿孔による血管損傷があり、特に下顎骨においては骨外に舌下動脈やオトガイ下動脈が走行しているため、骨質の状態の診断の誤りや誤った方向へのドリリングにより動脈を傷付けてしまうことでの死亡事故も報告されてい

ます。このような事故が起こらないためにも、術前の骨の状態の把握と骨の切削感覚の予測が不可欠です。今回我々は、海綿骨の骨梁構造を考慮した力覚体感型インプラントシミュレーターを開発しており、本装置を用いることで、解剖学的な構造に対する知識の習得のみならず、個体差に起因する骨のドリリング時の切削感の違いを体感でき、また仮想現実上で種々の失敗事例や成功事例の反復練習を可能にします。それにより習熟に時間を要する高度医療の経験の場を増やすことにつながり、エキスパート育成に貢献することを目的としました。下顎臼歯部をマイクロCTにて撮影し、骨梁構造を含んだ三次元有限要素モデルを作製しました。当大学の倫理委員会の承認済みの御遺体を用いて計測したドリリング時の反力値をソフト上で対応させ、力覚体感装置にて再現し、今回は正常な位置にドリリングができた事例と偶発症に至った失敗事例とを検討しました。

上部皮質骨から海綿骨領域、そして失敗事例としての骨外穿孔時の切削力の違いを有限要素法により解析でき、力覚体感装置で提示することができました。また、ヘッドマウント型ディスプレイによる仮想現実上で実際の手術時の臨場感を味わいながら骨の切削感を体感し、成功例はもとより失敗例を反復して体験することが可能となりました。以上の結果をふまえ、症例が少ない歯科医師でも本シミュレーターを用いて疑似体験を積むことで、ドリリングの力覚の経験値を蓄積することが可能であることが示唆されました。

今回受賞させていただきましたことを励みにこれからも精進してまいりたいと思えます。最後に、本研究の機会を与えて下さり、ご指導とご校閲を賜りました、東京歯科大学解剖学講座 教授 阿部 伸一 先生、解剖学講座 教授 井出 吉信 先生、慶應義塾大学理工学部 教授 高野 直樹 先生、そして関係者各位にこの場を借りて心より感謝申し上げます。



かやしま
萱島浩輝先生
大阪大学大学院歯学研究科

顎口腔機能再建学講座 クラウンブリッジ補綴学分野
演題名「移植に安全な iPS 細胞技術を基盤とした新規
骨増生術の開発」

第 43 回日本口腔インプラント学会学術大会において
上記賞に選出していただき、大変光栄に存じます。

この度発表した研究内容は、私が大学院生時代から興味をもって進めているものであり、大変嬉しく思います。インプラント治療には、安定した骨増生術が必要であり、確実かつ安全な再生医療技術が求められています。我々は、患者の負担が小さく採取が容易であり、良好な初期化効率を示す歯肉線維芽細胞から iPS 細胞を樹立しました。個々の患者から作製した iPS 細胞は、歯槽骨への再生医療への応用が期待されますが、その実現には、移植後の細胞の腫瘍化を回避した骨形成誘導技術の確立が課題となります。本研究では、移植後の腫瘍形成を回避した iPS 細胞の骨芽細胞分化誘導法の確立を目的とし、骨芽細胞分化を促進する小分子化合物が、歯肉由来 iPS 細胞の骨芽細胞分化および腫瘍形成に及ぼす影響について検討を行いました。その結果、スタチン化合物は、試験管内で iPS 細胞を成熟した骨芽細胞に導き、これを体内に移植することで新生骨の形成が得られることが明らかとなりました。また、スタチン化合物は、iPS 細胞の移植先における腫瘍形成を長期にわたって抑制することが見出されました。臨床応用するためには、いまだ解明すべき点が多くありますが、本研究結果が新規の骨組織再生技術に貢献し、歯科医療へ応用されることを期待しております。

最後に、このような研究の機会を与えていただいている大阪大学大学院歯学研究科 クラウンブリッジ補綴学分野の矢谷博文教授ならびに直接研究をご指導いただいております東北大学大学院歯学研究科 分子・再生歯科補綴学分野の江草 宏教授に厚く感謝申し上げます。



淵上 慧先生
東京医科歯科大学
インプラント・口腔再生医学分野

演題名「インプラント周囲骨吸収に関する臨床的検討」

この度は第 43 回日本口腔インプラント学会学術大会におきまして名誉あるデンツプライ賞を受賞させていただき、大変光栄に存じ、心より感謝申し上げます。また、ご選考いただきました先生方、学会の皆様方に深謝いたします。

インプラント治療は現在、予知性の高い治療方法として広く普及していますが、その一方で、補綴装置の破損、スクリューのゆるみといった補綴学的合併症、外科手術後の疼痛、麻痺といった外科的合併症、インプラント周囲の炎症を代表とする生物学的合併症など種々のトラブルが生じることが報告されています。本研究では、インプラント治療において最も頻度の高いトラブルであるインプラント周囲疾患について、インプラント周囲炎の臨床像の一つである周囲骨吸収の発症頻度、インプラント周囲骨吸収のリスク因子の調査を行いました。

本研究は、インプラント治療後 5 年以上経過したメンテナンス中の患者を対象として、レントゲン写真におけるインプラント周囲骨吸収像を有する症例の割合につき調査し、インプラント周囲骨吸収像の有無とインプラント体表面性状、部位特異性、咬合状態、残存歯の状態との関連性について、後ろ向きに症例データを評価しました。インプラント周囲骨吸収の有無と歯周疾患の既往の有無、表面性状、欠損形態、上部構造、対合歯の状態、欠損部位を調査項目とした logistic 回帰分析から、インプラント周囲骨吸収は、歯周病既往患者に発症しやすいこと、連結された上部構造において発症しやすいこと、対合歯がインプラントの症例において発症しやすいことが示唆されました。今後は、対象患者数を増加すると同時にさらなる経年変化を調査し経年的な骨吸収度につき検討を行っていきたいと考えています。

最後に、本研究に際しご指導をいただきました春日井昇平教授ならびにご助力いただきました東京医科歯科大学インプラント外来の諸先生方に深く感謝申し上げます。

公益社団法人日本口腔インプラント学会

第20回 口腔インプラント専門医臨床技術向上講習会報告

教育・研修委員会委員長 矢島安朝
教育・研修委員会委員 関根秀志

平成26年10月19日(日)、千里ライフサイエンスセンター5階ライフホールにおきまして、大阪大学の前田芳信教育・研修委員会委員のもとで、第20回口腔インプラント専門医臨床技術向上講習会が開催されました。当日は、近畿・北陸地域をはじめ広く全国から108名の先生方のご参加をいただき、大変な盛況ぶりでした。改めまして、ご参加になられました先生方の学習意欲に敬意を表します。

今回は、本年度のテーマとなっております「適切な診断および安全・安心のインプラント治療ーインプラント治療の長期安定性を得るためにー」に沿って、各演者から熱のこもった講演が行われました。

午前中は、講習会開催のご挨拶ののち、このたびの講演会の企画趣旨説明を兼ねて前田委員から「本日の各講師にお答えいただきたいこと」として「長期に安定した結果を得るために、維持するために：長期症例でどのようなことが生じるのか？」と題した講演がありました。その中では、複数のコンセンサスレポートを引用されながらインプラント治療の成功基準の変遷が解説され、良好な長期経過を得ることが近年ではもっとも注目されていることが指摘されました。そののち、固定性と可撤性上部構造それぞれの長期経過における問題を数々の文献を紐解きながら整理されたうえで、各演者に対して①術前、術中に考えるべきこと、②術後に考えるべきこと、③見逃してはいけない

い兆候などが問いかけられました。

その問いかけに答える形式で、大阪歯科大学の諏訪文彦先生から「荷重時期について」と題し、サルを用いた動物実験によるインプラントの荷重時期に関する調査の概要が示されました。そして埋入時期を変化させた際の、インプラント体周囲組織の反応の違いについてお話いただきました。さらに、インプラント体の表面性状の違いが組織応答に及ぼす変化などについて基礎歯科的観点から即時負荷・早期負荷術式をご解説いただきました。

続いて、大阪府ご開業の江原雄二先生から「長期に安定させるための治療計画」というタイトルでご講演をいただきました。その中で、「安全で予知性の高いインプラント治療を行う上での留意点」として、「基礎的な歯科医療の習得」、「人為的な事故を防ぐ」、「合併症偶発症への適切な対処法を熟知しておく」ことなどの重要性が強調されました。さらに、「インプラント治療の長期予後の決定因子」として「患者の理解と協力」、「インプラントコンポーネント」、「治療にあたる臨床家の力量」などが指摘され、難症例を見極めるためには術前の適確な診査・診断による「患者の真のニーズ」の把握がポイントになることをお示しいただきました。加えて、インプラント治療に対する心構えや治療計画立案の原則となる概念についてご解説いただきました。



前田先生から各演者への問いかけ



諏訪先生のご講演



全体ディスカッションで質疑に応じる和田先生



会場を埋め尽くした多数のご参加された先生方

午後は、大阪大学の中野 環先生から「固定性上部構造における注意点」というタイトルで、3Dシミュレーションと外科用ガイドプレートを用いる術式により周囲組織の形態と厚みを把握することが、インプラント体の適切な位置への埋入につながることをご教示いただきました。そのうえで、トラブルを起こしにくい上部構造の精度・設計・材質について、CAD/CAM加工による数々の症例をご提示いただきながらご解説をいただきました。

続いて午後の第二演題として大阪大学の和田誠大先生から「可撤性上部構造における注意点について」というタイトルで、超高齢社会における可撤性上部構造の有用性、装着後に生じるトラブルから導き出された設計方針などをお示しいただきました。加えて、認知症や要介護者に対するインプラント治療の問題点について総括されたのち、固定性上部構造症例の残存歯に問題を生じた際には、「可撤性補綴への改変」と「追加埋入」の双方の可能性が検討されることが望ましいとのお話をいただきました。

最後に、宮崎県ご開業の松井孝道先生から「インプ

ラント周囲炎への対応」というタイトルで、インプラント周囲炎に対する種々の治療方法や材料・機器の特徴と適用基準を解説いただきました。さらに、重度のインプラント周囲炎においては環境によってチタンが腐食する可能性があること、それに起因すると考えられるチタン金属元素の組織内への溶出が疑われる多くの臨床例の分析結果をお話いただきました。

それぞれの講演が、臨床的な知見に科学的根拠を交えてインプラントの長期安定性について検証された内容であり、専門医臨床技術向上講習会にふさわしい、大変アカデミックな講習会となりました。

その後、総合討論では講演の内容を中心に様々な質問がご参加いただいた先生方から寄せられ、45分ほどの時間が瞬く間に過ぎました。

最後に、認定委員会からの受講単位の説明を認定委員のお立場で涌本 昇先生からいただき、修了式が執り行われました。

まる一日を費やした第20回口腔インプラント専門医臨床技術向上講習会は盛会のうちに、16時30分には無事にすべての日程を終了いたしました。

第45回 公益社団法人日本口腔インプラント学会学術大会 若手インプラントロジストセッション演者募集について

学術委員会委員長
古谷野 潔

第45回学術大会では、これまで「若手インプラントロジストのためのワークショップ」として開催されていたセッションを発展させ、新たに「若手インプラ

ントロジストセッション」を企画いたしました。このセッションは優秀な若手臨床家・研究者から自発的に企画を出していただくことで、学会活動の活性化を図

る目的の公募セッションとなります。

日時：平成 27 年 9 月 23 日（水・祝）13:30～15:30

場所：第 2 会場（ホテルグランヴィア岡山）

講演時間：20 分（講演時間について変更になる場合があります）

セッションテーマ：基礎・臨床 特に制限はありません。

実施要項：セッションテーマと抄録（1000 字以内）を

提出してください。

応募資格：セッション開催時、満 40 歳以下の本学会会員、自薦・他薦問いません

応募方法：応募用紙は、本学会第 45 回学術大会ホームページ上に掲載しております。

必要事項をご記入のうえ、学会事務局宛て E-mail (jsoi@peace.ocn.ne.jp) にてご応募下さい。

応募締切：平成 27 年 4 月 20 日（月）

重要！

利益相反 (COI) 状態の申告について

平成 27 年度から、本学会が主催する学術大会や講習会等で発表する場合、利益相反 (COI) 状態の申告が必須となります。

第 45 回学術大会（於：岡山）の演題登録は、大会時のシステムから申告が可能です。ただし、それ以外

（支部学術大会等）については、本学会ホームページに COI に関する各種フォーム（申告様式）が掲載されておりますので、各自ダウンロードのうえ、ご利用くださいようお願い申し上げます。

事務局移転のお知らせ

このたび、公益社団法人日本口腔インプラント学会は、平成 27 年 3 月 2 日（月）より、下記に移転することになりました。

このたびの移転は、手狭となっておりましたための移転であり、業務の効率を図ったものでございます。

まずは、略儀ながらご案内かたがたご挨拶申し上げます。

※ 2 月 27 日（金）は、移転作業のため休業となります。

【新所在地】

〒108-0014 東京都港区芝四丁目 3 番 5 号

ファースト岡田ビル 8F 3

TEL : 03-5765-5510

FAX : 03-5765-5516

E-mail : jsoi@peace.ocn.ne.jp

※電話番号及び FAX 番号、E-mail に変更はございません。



※ JR 田町駅から徒歩 6 分

都営三田線三田駅 A9 出口徒歩 1 分

研修施設紹介

北海道形成歯科研究会

施設長 吉村治範

当研究会は、故 湯浅保宏先生、松澤耕介先生のお二人が、山根稔夫先生（日本形成歯科研究会、現・公益社団法人日本歯科先端技術研究所）から学ばれたブレードインプラントおよび骨膜下インプラントの基礎と臨床のコンセプトを、北海道にも広めようと意図され、1972年4月に設立されたのが始まりです。

その後、口腔インプラント学会が認定医制度の設立に向けて動き出したのに合わせ、1990年より骨内法インプラント研修会（当時はまだ3カ月コース）を開催し、指定研修施設としての受け入れ態勢を整え始めました。そして1992年4月より正式に発足した認定医制度に対応するため、1994年よりインプラント専門医養成講座（100時間コース）に形態を移行しました。そしてこの研修会もすでに今年で25年目を迎えます。さらにインプラント専門歯科衛生士制度（2007年4月施行）の設立においても、その養成コースの必要性を松澤前施設長が予見され、2007年全国に先駆けて当研究会内に歯科衛生士部会を設立し、同年よりインプラント専門歯科衛生士育成研修会を開催し、こちらも今年で9年目を迎えます。このような変遷を経て、現在当会は歯科医師会員227名、歯科衛生士部会員77名、歯科技工士会員6名、賛助会員28社の陣容となっております。そしてこれらのメンバーのうち、指導医8名、専門医46名、専修医16名、ケースプレゼンテーション試験合格者25名、専門歯科衛生士23名、専門歯科技工士4名が公益社団法人日本口腔インプラント学会の有資格者となっております。

当研究会の主な活動は、専門医および専門歯科衛生士養成講座の運営の他に、年4回の例会と学会発表やケースプレゼンテーション試験の予演会、さらに全身管理を学ぶための分子栄養学講座の開催などを行ってきました。しかし会員数の増加に伴いきめ細かい指導が行き届かなくなっていること、また会員同士のコミュニケーションを図ることが難しくなっていることなどの問題点が出てきました。そこで昨年6月に、三上格新会長の提案により、ルスツリゾートにおいて、インプラントに限らず各会員が日々取り組んでいることや、歯科医療や社会に対する提言などを、10分程度にまとめてメッセージを伝える討論会を開催いたしました（写真1）。いままで同じ会に属していながら、それぞ



写真1

れの会員がどんなことを日頃考えているのかを知る機会がなかったため、「この討論会をきっかけに会員同士お互いを良く理解できるようになった」と、とても好評でした。そこで本年3月7日、8日に前回の討論会をより

発展させた形で、幾つかのテーマに沿って1人15分程度で提言をまとめて発表しあうセミナーを開催することにいたしました（写真2）。初めての試みでどのような結果になるか少し不安もありますが、会員の研鑽の場として、今回も有意義なセミナーになることを期待しております。このセミナーはオープンにしておりますので、ご興味のある方は是非ご来場ください。

北海道形成歯科研究会はこれまでの43年間、故湯浅保宏先生（元日本口腔インプラント学会副会長）、松澤耕介先生（元日本口腔インプラント学会常務理事）、そして小川 優先生（前北海道形成歯科研究会会長）の強力なご指導のもとで発展してまいりました。そして昨年より当会会長を三上先生が小川先生より引き継ぎ、私、吉村が松澤先生より施設長を引き継ぎました。専門医養成講座の受講生の獲得や専門医および指導医の養成、そして当研究会の永続性の確保など課題は山積みですが、学会の皆様のご協力を得ながら指定研修施設としての責務を果たして参りたい所存です。今後も皆様のご指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。



写真2

東北大学病院 歯科インプラントセンター

施設長 佐々木啓一

平成 25 年 4 月 1 日に「東北大学病院歯科インプラントセンター」が開設されました。ご存知のように、東北大学病院は平成 23 年 1 月に医科・歯科の診療科が完全統合された総合病院であり、病床数 1262 床、一日当たりの外来患者数約 3,000 名の東日本最大の医療拠点です。東北大学病院が、安全で安心、かつ先進的なインプラント医療を提供することにより、東北地方のインプラント診療・研修の拠点となることを目指しています。このためには、インプラント治療に関わる複数の診療科ならびに治療部の連携を強化し、効率的かつ安全で高度なインプラント治療が行える診療体制を確立するだけでなく、インプラント治療の教育、地域支援、研究および発展に関する役割を担っていかねばなりません。「歯科インプラントセンター」では、以下の特色を持って、インプラント診療を行っています。

1) インプラント治療に関わる診療科・治療部の連携による安全で高度な医療の提供

初代センター長には小山重人顎口腔再建治療部長、副センター長には山内健介歯科・顎口腔外科外来長が就任しました。センター化することにより口腔診断科、口腔外科、歯周病科、補綴科など関連科・部間の連携がこれまで以上に深くなり、より良質な歯科インプラントチーム医療の提供が可能になりました。特定機能病院として高次医療を担う使命のもと、顎顔面欠損、顎口蓋裂、高度顎堤吸収症例および有病者、高齢者に対して、骨造成、全身麻酔下歯科治療、入院手術により対応できる安全かつ高度で先進的な治療法を開発し実施しています。

2) 歯科インプラントセンター（外来治療室）の開設による診療体制の強化

「歯科インプラントセンター」は新外来棟 4 階に開設され、最新のインプラント診療システムが完備されています。また、同一階の歯科・顎口腔外科との連携を図り、骨造成・鎮静法など全身管理が必要な患者様は、歯科麻酔科と連携して顎口腔外科処置室にて治療しています。さらに、病院機能（病院手術室、一般病床）などを有効活用し、医療安全に重点を置いた診療を行っています。



歯科インプラントセンターの体制



センター開所式にて

3) 最先端の臨床研究

歯科インプラントセンターで行うアプローチは、今現在、最も有効とされる臨床術式を最新の臨床研究から常にアップデートしながら実施しています。また、臨床疫学研究のみならず新しいインプラント材料の開発などの基礎研究の成果を臨床に応用する、いわゆるトランスレーショナルリサーチ（橋渡し研究）の実践の場となっています。

4) 信頼性の高いインプラント診療技術を持った人材の育成

これまで民間主導だったインプラント研修に関しても大学が主体的に関与し、最新の研究成果、設備および人材を活用した優れた教育研修システムの開発・提供・実践を行うとともに客観的評価方法を開発し、国際的標準への適合を目指します。

これらの取り組みにより、「歯科インプラントセンター」が、地域医療や我が国全体の医療に貢献できる人材の育成に大きく貢献します。

平成 26 年度 ケースプレゼンテーション試験合格者

米田晋也,	西馬伸幸,	永山哲史,	針谷靖史	藤岡裕美,	宮城直美,	深瀬亜希,	飯淵信也
加藤真悟,	石井彰夫,	若松義昌,	飯田 格	福澤 智,	田坂彰規,	太田貴之,	田村暁子
寺嶋宏曜,	古森 賢,	松梨 寛,	小野里元気	小栗卓也,	べ谷秀人,	中田光太郎,	渡邊二三雄
安藤裕康,	上中彰浩,	高橋俊一郎,	森 泰正	竹野智崇,	米本久史,	江原大輔,	高田光彦
佐藤成実,	篠崎泰久,	佐藤 亮,	安藤琢真	新井一平,	友野博記,	山本雅章,	松田謙一
山本将之,	太田広宣,	岡本佳明,	村中哲也	村上貴也,	佐藤奈保子,	藤原康行,	門田和也
丸尾勝一郎,	松田光正,	加藤久尚,	岡田 淳	安陪 晋,	佐々木匡理,	松本達事,	伊藤勝敏
毛利啓銘,	藤本俊輝,	西原秀幸,	足立友秀	梶原基弘,	安田久理人,	三木通英,	佐藤 毅
戸田成紀,	黒澤 悟,	奥村拓也,	山田晴樹	野田欣志,	山本公珠,	我如古清太,	丹羽 崇
中島泰輔,	杉村 亮,	山西康文,	續 宏之	岸 輝樹,	黒岩昭弘,	小森由子,	片山 昇
引間正太,	江俣壮一,	寺井邦博,	関矢泰樹	島山 航,	石川昌洋,	和久雅彦,	青海津行
柳井智恵,	上野紀幸,	松原秀憲,	辻 展弘	松本圭一郎,	大嶋一洋,	山村卓生,	山羽 徹
武藤隆嗣,	荒井良明,	村上徳夫,	笠井俊輔	富田尚充,	林 清誠,	石川明子,	平 健人
小原澤友伸,	田品寛樹,	三浦稔呂,	大倉顯智	赤沼正康			
成田 淳,	森 竜文,	足立安弘,	中居伸行				
林 憲邦,	田熊啓弘,	中島奈津紀,	米田綾子				
森 憲弥,	工藤 求,	大久保直尚,	長島 悟				
森 啓輔,	錦 勲,	田所久永,	高橋啓子				
辻 吉純,	大月 要,	三野卓哉,	森山聖子				
高橋洋平,	森 公寿,	中島康雄,	長谷川 健				
前田 貢,	守島健次,	高田匡基,	太田淳也				
西脇知弘,	沖田亮介,	石原 昇,	黒江敏史				
北坂卓哉,	武内孝治,	吉竹賢祐,	谷山隆一郎				
赤塚麻帆,	望月宣秀,	前川光太郎,	藤岡洋記				
津元浩光,	大門 忍,	横山 隆,	阿保淳一				
古橋匡文,	守 源太郎,	各務秀明,	山田晃久				
武田聡史,	加納 良,	菅谷和之,	森島靖仁				
奥井英幹,	杉山秀太,	砂盃 清,	吉田健二				
長濱英嗣,	樋口一敏,	金成雅彦,	永田達也				
有田一喜,	今 一裕,	丸山真哉,	竹内孝興				
木山 洋,	佐藤好孝,	青戸光紀,	木村 正				
石垣佳希,	土肥健二,	林 幸央,	坂井拓弥				

(合計：181名，順不同)

広報委員会からののお知らせ

今年度から塩田 真(東京医科歯科大学)が委員長を務めます。現在の広報委員会のメンバーは以下の通りです。

委員長：塩田 真

副委員長：市川哲雄

委員：山森徹雄, 北川 昇, 嶋田 淳,
内藤宗孝, 山内六男, 十河基文,
添島義樹

広報委員会はニュースレターとホームページを通じて会員の皆様に学会の情報を素早く正確に伝達するよう努力致します。とくに今年度は広告可能な専門医取得に向けて広報の立場からサポートしていく所存です。御意見, ご要望等ございましたら, 以下の連絡先にご連絡下さい。

〒113-8549 東京都文京区湯島 1-5-45

東京医科歯科大学インプラント・口腔再生医学分野 塩田 真

電話：03-5803-5774

ファックス：03-5803-5774

メールアドレス：mshiota.impl@tmd.ac.jp

新入会者紹介

(平成26年7月15日～平成27年1月8日)

▼東北・北海道支部

(北海道) 大藏洋明, 大塚祐輝, 川辺紗弓
功刀大地, 後藤まりえ, 石戸克尚, 武田貴子
津田香織, 長野慎五, 永易裕樹, 野村真有美
疋田一洋, 深沢 亨, 蓑輪伽奈, 山岸睦季
山中敏樹, 吉田昂司
(青森県) 小山俊朗
(岩手県) 佐藤宏明, 中里文香
(宮城県) 小川 徹, 奥平泰久, 小田島健二
小田島 優, 勝田悠介, 北村 淳, 百地慶彦
渡辺 隼

(秋田県) 大熊 炬, 半田ちひろ
(山形県) 石川志穂, 北島健一郎, 齋藤 寛
佐藤孝弘
(福島県) 佐藤元美, 白土友子, 高田 訓
照屋 祐, 奈田憲二, 西山知子, 森 慎一郎
森蔭直広, 山野辺晋也, 山本真理, 渡邊 俊

▼関東・甲信越支部

(茨城県) 猿山美久, 嶋野一弘, 副島隆太
(栃木県) 鹿志村圭, 川嶋理恵, 澤木理恵
篠崎理佳
(群馬県) 今泉由香里, 佐藤 愛, 宮川恵実
山本聖子
(埼玉県) 市之瀬恵子, 岡村正美, 押田 章
小貫裕之, 加瀬 茜, 勝木雄大, 北浦伸城
桐生達也, 小林 諒, 立川光彦, 田村吉弘
徳永瑠奈, 内木 茜, 那須一徳, 引間 新
平井直樹, 福田 仁, 藤岡美玖, 細井秀悟
松生哲也, 水口 隆, 三村綾子, 森永誠一郎
遊澤奈都
(千葉県) 臼井紀代美, 大岡悟史, 梶谷いつか
川島大輝, 桑原良幸, 小島亮人, 佐久間郁美

柴田 力, 出口泰樹, 中村一彦, 島山晴佳
横田哲史
(東京都) 青木裕子, 青木陽一, 荒井秀次
新井広幸, 安藤成澤, 飯塚あさみ, 五十嵐秀典
井川淳一, 石井宏卓, 石川直広, 伊藤麻美
伊藤大基, 井上 薫, 伊良部 誠, 植原 亮
榎本友香, 大高 至, 岡田恵美, 小熊 総
尾崎忠克, 折戸 唯, 片岡志基, 勝田優一
加藤 愛, 加藤夕貴, 神野良子, 川口祥子
北山 徹, 木村 崇, 桑原裕樹, 小池珠実
小谷祐子, 小林将人, 小峯明子, 小宮山 藍
近藤 麗, 齊藤建児, 斉藤 寛, 斎間洋甫
佐藤雄亮, 澤田光弘, 清水紗由里, 杉本 武
鈴木瑛郷, 鈴木 薫, 鈴木博康, 鈴木 隆
高野隼一, 田久保周子, 長 敬史, 寺澤真祐美
照山裕子, 富山勝弘, 中島信二, 中島美紀
中山一久, 中山亮平, 任 恩愛, 根岸浩二
野口顕造, 橋口英生, 長谷川嘉昭, 濱田啓一
林田真治, 平山可菜, 深畑伶南, 福井里奈
船木 弘, 星野雄太, 水谷 允, 三宅英紀
宮田忠明, 村井東俊, 村上珠美, 山川 樹
山口千緒里, 山中大輔, 吉川幸輝, 與世田幸子
米田憲哉, 和田莉那, 渡辺健次
(神奈川県) 赤尾光謙, 伊藤千成, 稲村和俊
岩崎和人, 小川 香, 梶谷直子, 加藤祐美
川上 梓, 陸 誠, 熊谷浩人, 輿 圭一郎
佐藤絢香, 清水智子, 進藤雄一, 惣田真人
田村拓隆, 坪光玄義, 長崎公壽, 永島久美
中村恵理, 中村宏介, 布川美紗, 野見山 潤
長谷川 敦, 福成 玄, 松永和幸, 三浦回也
三宅信義, 甕 理代, 望月由香里, 渡邊美奈子
(新潟県) 小千田雅, 篠原隆介, 田中博子

- 塚田哲也, 辻 哲範, 村松瑞人
 (長野県) 荒川勇喜, 倉田邦明, 菅生秀昭
 山口正人
- ▼中部支部
- (岐阜県) 今井めぐみ, 岩井晋太郎, 勝野雄司
 久保宗平, 中倉裕博, 中倉優子, 山田麻友美
 (静岡県) 笠原明人, 栄 敏之, 徳丸裕晃
 内藤 毅, 堀場将士
 (愛知県) 浅井 暁, 今枝常晃, 岩田綾美
 大見洋平, 梶川幸久, 河合里奈, 木戸亮太
 後藤正志, 杉本圭佑, 高嶋俊裕, 谷島 茜
 富岡恵美子, 中村恵祐, 福島美奈, 増田丈浩
 三田 崇, 三矢雄大, 山口 聡, 山本桂輔
 渡邊裕紀
 (三重県) 池田 圭, 小林崇将, 長岡純一
 西井 慶
- ▼近畿・北陸支部
- (富山県) 川淵貴司, 萩中仁徳
 (石川県) 喜多裕之, 高橋忠弘
 (福井県) 福島稔晃
 (滋賀県) 大久保康則, 詫間朋子, 安原有紀
 (京都府) 太田 舞, 大前亜里紗, 蔭山孝司
 国金誠一郎, 小佐々望太, 清水友子, 清水雅子
 白江俊毅, 田中佐智子, 西村 毅, 原山直太
 松枝良祐, 溝井 圭, 横尾嘉宣, 横田幸治
 吉田 剛, 脇田浩治
 (大阪府) 阿部舞美, 石黒照幸, 伊谷美咲
 上村奈都子, 上村美奈代, 岡 昌平, 岡 美里
 奥井元貴, 音山和広, 鉄田豊和, 柿原里絵
 要 智子, 金森あすか, 楠井崇介, 小林将之
 近藤充茂, 斎藤紘一郎, 境 健太郎, 下出孟史
 住岡 聡, 住岡龍一, 高岡亮太, 竹本留美子
 谷 俊紘, 辻阪亮子, 峠谷実保, 中谷貴範
 中谷早希, 中家麻里, 西津聡恵, 浜付早紀
 平木孝佳, 藤田恵美, 南野卓也, 村井俊介
- 山本治毅, 山本宏美, 横瀬麻衣子, 吉富啓一
 吉永 仁, 吉村 円, 四井資隆, 渡部大地
 (兵庫県) 粟谷英信, 石原健人, 上田佑香
 榎本由依, 柏原理奈, 熊田佳那子, 小坂友康
 酒井明乃, 白石真教, 田中栄土, 谷口貴一
 辻 和志, 橋本佳奈, 藤田美有紀, 矢富晃一郎
 米山博彦
 (奈良県) 川島 涉, 粉川和也, 寺野 寛
 前原友香, 南 智香子, 村井規悦
 (和歌山県) 川崎豪彦
- ▼中国・四国支部
- (岡山県) 河田敦子, 野亀慶訓, 柳 文修
 (広島県) 石田扶美, 沖 佳史, 林 順二
 (山口県) 田中智子, 張江昌宏
 (徳島県) 井汲 建, 和泉幸治, 千財宏補
 吉田雅彦
 (香川県) 木田 聡, 津谷俊司, 真鍋知房
 (愛媛県) 河本京子
 (高知県) 井上多美, 専當クミ, 田口亜希
 前田貴和
- ▼九州支部
- (福岡県) 安部百合子, 井上剛臣, 香月亜希子
 月足早希, 寺崎崇人, 鳥越理一, 中原裕子
 中村康平, 林 慶和, 藤田啓一郎, 増田俊明
 松本聖武, 山口浩太郎
 (佐賀県) 内村万里, 富樫宏明, 内藤恭史
 吉武憲子
 (長崎県) 伊藤順也, 坂田つかさ, 西田佳世
 西田耕也
 (熊本県) 鏡 英治, 佐藤俊一郎, 柴田直子
 杉 涉, 松本幸大
 (宮崎県) 池井智紀
 (鹿児島県) 吉田雅司
 (沖縄県) 上田剛生, 八木宏幸

(以上 392 名)

目次

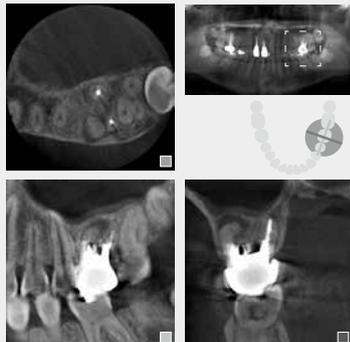
新年のご挨拶	1, 2
第44回公益社団法人日本口腔インプラント学会学術大会開催報告	2, 3
第45回公益社団法人日本口腔インプラント学会学術大会のご案内	4
第44回公益社団法人日本口腔インプラント学会学術大会受賞者紹介	4, 5
平成26年度 学会特別論文賞受賞者紹介	5~7
平成26年度 学会優秀論文賞受賞者紹介	7, 8
平成26年度 学会奨励論文賞受賞者紹介	8, 9
第43回学術大会 優秀研究発表賞受賞者紹介	9~13
第43回学術大会 デンツプライ賞受賞者紹介	13~15
第20回口腔インプラント専門医臨床技術向上講習会開催報告	16, 17
若手インプラントロジストセッション演者募集について	17, 18
重要! 利益相反(COI)状態の申告について	18
事務局移転のお知らせ	18
研修施設紹介	
北海道形成歯科研究会	19
東北大学病院歯科インプラントセンター	20
平成26年度ケースプレゼンテーション試験合格者紹介	21
新入会者紹介	22, 23
広告	24
目次	24

Thinking ahead. Focused on life.

Debut Veraviewepocs 3Df 40e

ベラビュー エボックス

CT撮影、パノラマ撮影、セファロ撮影が1台で可能なVeraviewepocs 3Dfシリーズに、画像の精細さと撮影の簡単さはそのままに、機能を絞ることで低価格化を実現したVeraviewepocs 3Df 40eが新登場。CT撮影はφ40×H40mmとφ40×H80mmの2種類のFOVを選択することができます。



発売 株式会社 モリタ 大阪本社: 大阪府吹田市重水町3-33-18 〒564-8650 TEL 06-6380-2525 東京本社: 東京都台東区上野2-11-15 〒110-8513 TEL 03-3834-6161
 製造販売 株式会社 モリタ製作所 本社工場: 京都府京都市伏見区東浜町680 〒612-8533 TEL 075-611-2141 久御山工場: 京都府久世郡久御山町市田新津屋190 〒613-0022 TEL 0774-43-7584
 販売名 ベラビュー エボックス (昔年価格: 301,400円 - 14,800,000円) (消費税別) 2013年6月21日現在 一般的名称: アナログ式歯科用パノラマ 断層撮影X線診断装置
 機器の分類: 管理医療機器(クラスII) 特定保守管理医療機器 医療機器認証番号: 2090082200259000
 Morita Global Site: www.morita.com